



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2005.11.28 No. 29 - 10

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

IFALPA ADO (Aircraft Design & Operation) Committee meeting in Cuernavaca, Mexico 報告

10月10日~12日の3日間 CUERNAVACA, MEXICO で行われた IFALPA ADO Committee の内容を報告します。ASPA (Asociacion Sindical de Pilotos Aviadores de Mexico) をホストとして、Boeing、Airbus のオブザーバーを含み 17 名の IFALPA メンバーが参加しました。ICAO ANNEX 8 の変更に伴い、来年の IFALPA 総会で提案できるよう IFALPA Technical Manual Annex 8 の改定案作成に大きな時間を割きました。1985 年に IFALPA Policy として採択されたものが多数残っており、ICAO の ANNEX に反映されたものなどは削除されました。

Jet Blue A320 インシデントについて

ロサンゼルス国際空港で、真横になった前輪部分から炎を噴き上げ緊急着陸した、Jet Blue A320 も議題にあがりました。Nose Wheels が 90 度曲がって着陸したケースは、今まで 13 件記録されていると Airbus から報告がありました。

(詳細は IFALPA Safety Bulletin 006 Jet Blue A320 landed with crippled nose gear 参照)

B787 について

Boeing が IFALPA を招待し Seattle で行われた B787 Flight Deck Conference の報告もありました。

B787 は従来の表示より一回り大きな Display を装備し、ETOPS 330min に対応できるよう Range も 1280nm 表示可能です。航空機に近づく他の航空機、および障害物の情報を表示する Vertical Situation Display (垂直状況表示装置) など、新たな機能も装備しています。Dual HUDs (Head Up Display) が標準装備となり、外部監視をしながら計器をモニターでき、安全性の向上が図られています。

Boeing は新機種開発にあたり、過去の航空機事故を分析し、また、IFALPA ADO 委員会と情報交換、討議を重ねてきました。IFALPA のメンバーは、B787 を革新的な機能を備えた航空機であると好意的に受け止めています。

In-flight Fire について

In-flight Fire について、IFALPA Draft Policy の検討も行われました。まず、マスクを使用し Crew を守ること。Flight Crew と Cabin Crew は、コミュニケーションをとり、問題の解決を図ること。チェックリストは、マスクをした状態でもはっきりとわかるように、大きなフォントを使用すること。最寄りの適当な空港に速やかに着陸すること。これらを明記し、すばやい対策を施すことがチェックリストに求められています。特に最近の飛行機は、機内エンターテインメント、ギャレーなどで大量の電力を消費し、また熱をもつので必須であるといえます。

日乗連では、引き続き世界の動向を注視し、最新の情報をお伝えします。

